

切り絵『鶴翁恵美須神社』  
比企善彦作

# うぶすな

茨木神社社報

発行所

茨木神社社務所

茨木市元町4-3

072(622)2346

<http://www.>

[ibarakijinja.or.jp/](http://www.ibarakijinja.or.jp/)

## 「祝 新帝陛下御即位」

新帝陛下の御即位、心より御奉祝申し上げます。新しい御代の弥栄と、皇室の御安泰と万歳を衷心よりお祈り申し上げます。神武天皇から一二六代目の新帝陛下に至るまで、万世一系の大御心が受け継がれてきたことに、大きな喜びを感じます。

御譲位による御代替わりは江戸時代の光格天皇から仁孝天皇の際より二〇二年ぶりのことです。今回の御譲位にあたり、上皇陛下は神武天皇御陵、伊勢の神宮、そして昭和天皇御陵を御親謁されました。特に内宮では、天照大御神の御神前へ剣璽とともに進まれ、御参拝されました。御先祖さまを尊ばれ、天神地祇を敬われる大御手振りは、歴代受け継がれてきた変わらない慎ましきであります。

五月一日、剣璽等承継の儀に臨まれ、皇位とともに受け継がれてきた祖宗の神器を承けられました。続けて即位後朝見の儀に臨まれ、国民からの祝意をお受けになりました。今秋には即位礼正殿の儀、そして重儀である大嘗祭に臨まれます。神代から現代に受け伝えられてきた日本の心、そしてそれを体現されている存在が天皇陛下であります。これから斎行される諸盛儀の大御手振りは、この日本の心が顕現されていくものです。これら諸盛儀が我が国悠久の歴史と伝統に則り、万事恙なく厳かに執り行われますことを祈念するとともに、令和の御代が平安で穏やかなものであることを心よりお祈り申し上げます。



新元号「令和」

五月一日、新帝陛下が御即位遊ばされるに先立ち、去る四月一日、「平成」に替わる新しい元号が「令和」と発表されました。「令和」は、六四五年の「大化」以降、二四八番目の元号となり、日本古典からの引用は初めてとなるものです。「令和」の出典は『万葉集』巻五に収められた梅花の歌三十二首序文「初春の令月にして、気淑く風和ぎ、梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫らす」から引用されました。

万葉集が成立した奈良時代は、遣唐使が日本と大陸を横断し、国際色豊かな天平文化が花開きました。そして当時の貴族や学者達は、新たな知識や情報を我が国固有の文化にうまく取り込み、国家の政務や文学に注ぎ込みました。今日使っている「かな文字」もこの頃に創作され、特に「万葉仮名」と呼ばれています。「令和」からは、九州・大宰府の長官だった大伴旅人が友人達を招いて、新春の正月に

梅花を詠んだ情景が思い浮かべられます。

私達は元号によって我が国の歴史的な出来事を習い記憶してきました。従って元号を聞けばその時代と背景そして出来事を思い浮かべることが出来ます。現在、元号を使用している国は世界中で日本のみです。そして日本は四つ目の元号である「大宝」（七〇一年）から、一三〇〇年以上、途切れることなく元号を使い続けてきました。元号は極めて大切な未来へ繋ぐ伝統文化であり、世界に誇る日本の宝であります。これからも日本の誇りとして元号を大切に使いついでいきたいと思えます。



御即位に関する諸儀式

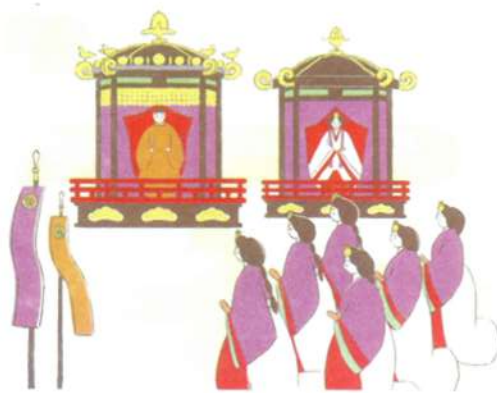
五月八日午前、天皇陛下は即位後初となる宮中祭祀に臨まれ

ました。これは、今年秋に行われる「即位礼正殿の儀」と「大嘗祭」の期日を、宮中三殿（賢所、皇霊殿、神殿）の神々に奉告する「期日奉告の儀」です。

「即位礼正殿の儀」を一〇月二十二日に、「大嘗祭」を十一月十四日、十五日に行うことを奉告されました。同日午後には、伊勢の神宮、神武天皇の御陵、そして昭和天皇以前の四代の天皇御陵に前記期日を奉告するために勅使（天皇のお使い）を派遣する「勅使発遣の儀」が行われました。

一〇月二十二日に執り行われる「即位礼正殿の儀」は、皇位につかれた天皇陛下が、その即位を全国の国民、諸外国に対し高らかに宣明する儀式です。儀式の執り行われる皇居正殿松の間の中央には、天皇陛下が登られる高御座が、その脇には皇后陛下が登られる御帳台が据えられます。天皇陛下のみがお召しになることが出来る黄櫨染御袍の御束帯をお召しになられた天皇陛下は、内閣総理大臣をはじめ多くの参列者を前にして即位に際してのおことばを述べられ

ます。これに奉答して内閣総理大臣は陛下へお祝いの言葉（寿詞）を奏上するとともに、萬歳を三唱し、国民挙げて陛下の御即位を奉祝します。



毎年十一月二十三日、天皇陛下は全国から奉納されたその年の新穀を、天照大神をはじめ、神々にお供えし感謝を捧げ「新嘗祭」を宮中で御齋行になります。なかでも御即位後初めて行われる新嘗祭が大嘗祭です。大嘗祭は、天皇御一代に一度行われる祭祀で御位につかれるうえで不可欠なものであり、数ある祭祀の中で最高の重儀とされています。大嘗祭は、特別



に造営された「悠紀殿」、「主基殿」を中心とした「大嘗宮」にて、夕方から深夜にかけて齋行されま  
す。天皇陛下はまず御身を清め  
られると、純白の御祭服をお召  
しになり祭祀に臨まれます。ま  
ず「悠紀殿」にて稲をはじめ様  
々な神饌をお供えになり、御告  
文を奏された後、その神饌を陸  
下御自身もお召し上がりになり  
ます。次に「主基殿」に移られ、  
同じ祭儀が執り行われます。

(五月十三日には、栃木県と京  
都府の稲が用いられることが古  
儀に基づいて決定されました。)



### 『御本殿創建四百年記念事業』 についてのご報告

昨年の「うぶすな」第54号で  
お知らせしましたように、個々

の社殿を改め現在の三神を祀る  
現本殿が元和八年(一六二二)  
に創建されてより、令和四年  
(二〇二二)で丁度四百年が経  
ちます。前号(第55号)でその  
後の進捗状況等を氏子崇敬者の  
皆様にお知らせし、ご理解とご  
協力をお願いする予定でしたが、  
昨年六月に発生した大阪北部地  
震さらにその後に襲来した台風  
により、氏子の皆様のご自宅も  
たいへん大きな被害を蒙られ、  
ご心痛大きいことと察するとと  
もに、当社も儀式殿屋根瓦や石  
造物に被害を受け、まずは被害  
の復旧・復興を第一として前号  
でのご報告は差し控えさせてい  
ただきました。

「御本殿創建四百年記念事業委  
員会」はその間も設計事務所、  
工事施工業者と本殿の改修及び  
幣殿・拝殿の造替に関する基本  
設計さらに震災復旧を含めた資  
金計画について協議を重ねて参  
りました。そして今春、基本設  
計および事業全体の概略がほぼ  
決定し、正式に業務委託の契約  
も締結できる運びと成りました。  
また本事業の名称も事業委員会

で検討の結果、「令和の大造営  
御本殿創建四百年記念事業」と  
致しました。造営工事の開始時  
期は今秋を予定しており、まず  
本殿工事の期間中大神様をお祀  
りするお社(仮殿)の造営に向  
けて次の工事を実施致します。  
・既存の手水舎の撤去及び臨時  
手水舎の設置工事  
・樹木の移植  
・構造物の撤去工事  
・その他付帯工事

そして仮殿本体工事は明年(令  
和二年)正月後を予定しており、  
設置場所は現在のご本殿前、石  
段の手前に造営致します。

そして六月初旬にはいよいよ  
大神様を仮殿に御遷りいただき  
仮殿遷座祭を執り行います。そ  
の後ご参拝の皆様には大神様が  
再び新宮にお還りいただきまで  
の間、仮殿でご参拝、またご祈  
禱をお受けいただく事になりま  
す。全ての工事が完了するのは  
現本殿創建四百年目に当たる令  
和四年秋頃を予定しております。  
期間中、工事車両の出入りなど  
ご参拝の皆様にはたいへんご不  
便をお掛けすることとは存じま

すが何卒ご理解、ご協力を賜り  
ますよう、よろしくお願い申し  
上げます。

本事業は先人達の偉業を継承  
するとともに、現代を生きる私  
たちが叡智を結集し、茨木神社  
の信仰と文化をこれから百年、  
二百年先の人々に伝えていくと  
いう、たいへん意義深い事業で  
あると同時に私たちの務めでも  
あります。勿論、それはひとり  
神社だけでは到底為し得るもの  
ではありません。氏子・崇敬者  
の皆様には本事業の趣旨を何卒  
ご理解いただき、事業完遂のた  
め格別のご支援・ご協力を賜り  
ますよう、重ねてお願い申し上  
げます。

## 「令和の大造営 御本殿創建 四百年記念事業」 事業委員会

### 奉賛会だより

四月十八日当社の祈年祭であ  
る春祭りに合わせて、恒例の奉賛  
会厄除安全祈願祭が四十二名の



会員出席のもと齋行されました。その後、会場を参集殿に移して総会が行われました。



総会終了後は、元茨木市市史編纂室長として永年茨木市史の編纂に携わって来られた田中裕三様に「消えた城郭都市郡山寺内町」のお話しを聞かせていただきました。室町時代に浄土真宗の寺院を中心に濠や土塁で囲まれた自治集落で自治特権や楽市などの経済特権をもつ強大な寺内町が茨木の郡山にも存在したという興味深いお話。郡山は西国街道近くに位置し、後に大阪城となる当時の石山本願寺に直通する大阪道の起点で、東には富田寺内町があり、南には本願寺門徒の三宅氏の居城がある

ことなどから、戦国大名をしのぐ勢力であった本願寺は交通の要衝である郡山に要害を築いたのだろうかと話されていました。その後、直会懇親会と続き盛会裡に終了いたしました。

### 手づくり市開催



去る四月二十日、当社境内にて手づくり市「ガンバル市！」が催されました。昨年秋に続き二回目です。今回もお菓子やアクセサリーなど三十三店のハンドメイドマーケット、またカフェやマツサージ体験など八店のマイスターズショップ、さらには落語ステージや抽選会場まで、大人から子供まで楽しめるバラ

エティ豊かな店舗が参道の周囲に所狭しとたち並び、多くの人が賑わいました。

### 茨木音楽祭

五月の四日・五日には、第十一回目となる茨木音楽祭（通称「いばおん」）が開催されました。回を重ねるにつれてすっかりゴールデンウィークの地域の一大イベントとして定着したこの「いばおん」。例年、茨木神社境内も十数箇所ある会場の一つとなつていきます。

今年も個性あふれるミュージシャンたちが素敵な演奏を聞かせてくれました。参拝に訪れた方も、しばし足を止めて耳を傾けておられました。



### これからの行事予定

#### ◆大祓神事

六月三十日 午後二時齋行

人形祓・茅の輪くぐり

厄除神楽

茅の輪守授与

#### ◆夏祭

七月十三日・宵宮

十四日・本宮

午前十時齋行

御輿渡御 神楽奉納

#### ◆末社琴平神社例祭

九月十日

#### ◆例大祭（秋祭）

十月十日 午前十時齋行

#### ◆七五三詣

十一月中随時

祈禱者にお守り

おみやげ授与

#### ◆末社恵美須神社例祭

十一月二十日

#### ◆天石門別神社記念祭

十一月二十二日

#### ◆大祓・除夜祭

十二月三十一日